

平成22年3月期 第2四半期決算説明資料



Joban
Kaihatsu
Co., Ltd.

平成22年3月期 第2四半期の総括

■当期の業績

当社グループは、中期経営計画（平成21年度から平成23年度まで）を着実に実行し、当社及びグループ7社間の結束力を強め、シナジー効果を発揮すること、また、顧客に対するB（ビフォー）・P（プロセス）・A（アフター）サービスを具体化し、実践すること等の方針展開に努め、利益の創出のために全役職員一丸となって職務遂行して参りました。

この結果、

受注高：建設投資等の減少の影響もあり、49億59百万円（前年同期比16.9%減）

売上高：上記と同様により、40億65百万円（同13.6%減）

繰越高：上記と同様により、43億87百万円（同34.0%減）

また、利益については、建設事業の売上高が第4四半期に集中するため、

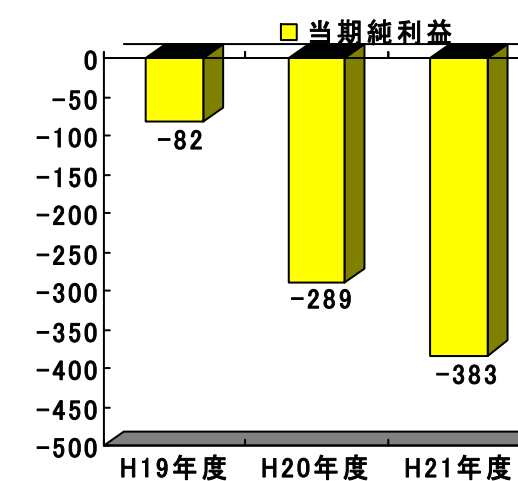
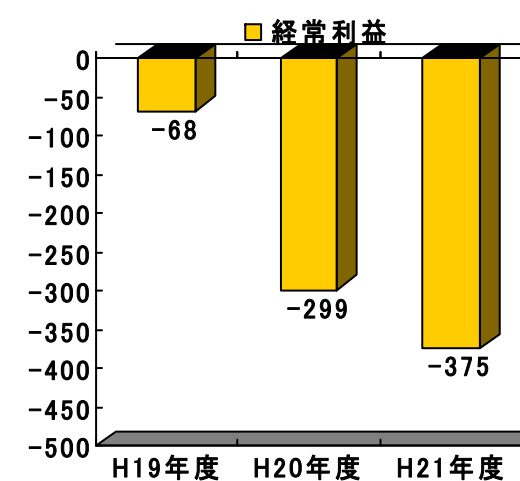
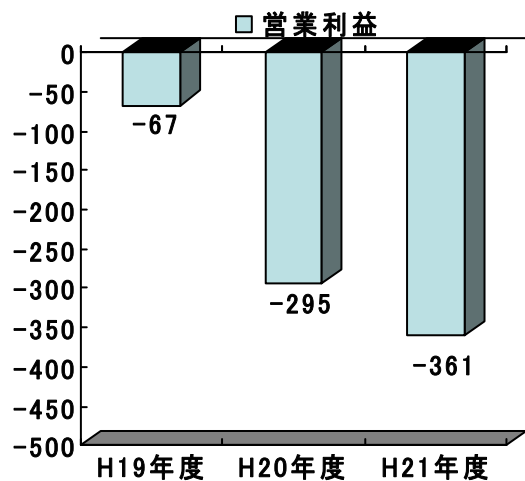
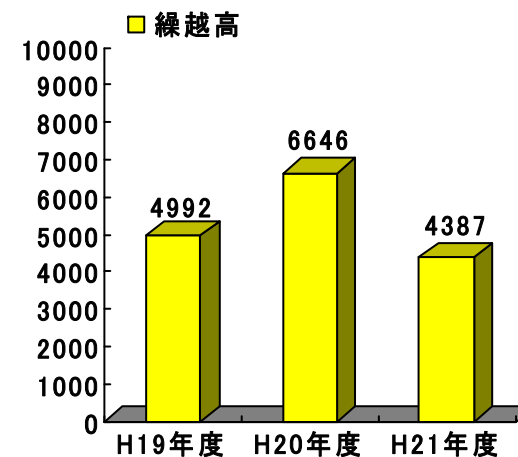
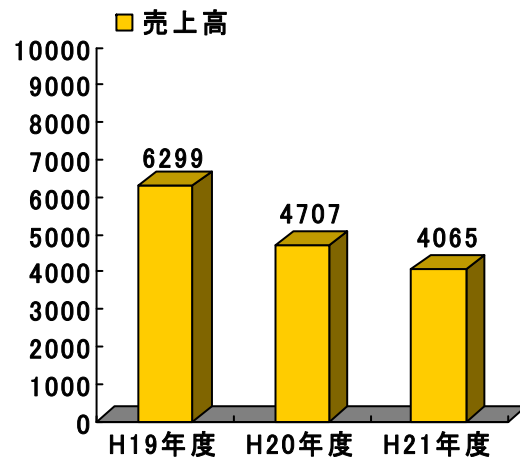
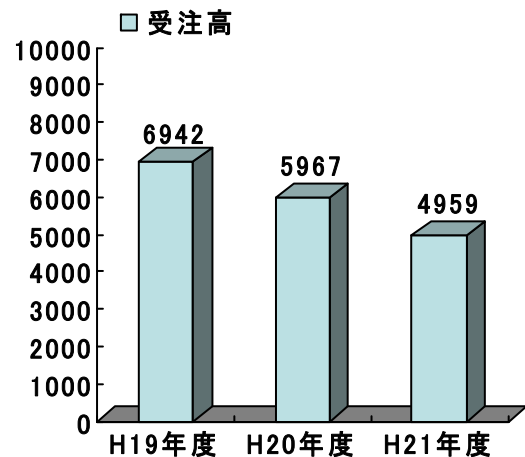
営業損失：売上高の減少により、3億61百万円（前年同期損失2億95百万円）

経常損失：上記と同様により、3億75百万円（同2億99百万円）

中間純損失：上記と同様により、3億83百万円（同2億89百万円）

平成22年3月期 第2四半期の総括

■当期の連結業績(単位:百万円)



平成22年3月期 第2四半期連結受注高及び連結繰越高

(単位:百万円)

	前期	当期	増減(率)	
受注高	5,967	4,959	▲1,008	(▲17.0%)
建設事業	4,696	3,815	▲880	(▲18.7%)
環境事業	846	718	▲127	(▲15.1%)
不動産事業	43	93	49	(113.4%)
その他事業	381	331	▲50	(▲13.1%)
繰越高	6,646	4,387	▲2,258	(▲34.0%)
建設事業	6,095	3,886	▲2,208	(▲36.2%)
環境事業	551	487	▲64	(▲11.6%)
不動産事業	-	13	13	(-%)
その他事業	-	-	-	(-%)

※当期受注高の建設事業内訳: 建築2,823百万円、土木992百万円

※当期繰越高の建設事業内訳: 建築2,411百万円、土木1,474百万円

平成22年3月期 第2四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期	当期	増減 (率)
売上高	4,707	4,065	▲641 (▲13.6%)
完成工事高	3,790	3,243	▲547 (▲14.4%)
環境事業売上高	492	412	▲80 (▲16.3%)
その他売上高	424	410	▲14 (▲3.3%)
売上総利益	347	257	▲90 (▲25.9%)
完成工事総利益	267	231	▲35 (▲13.3%)
環境事業売上総利益	40	24	▲15 (▲39.0%)
その他売上総利益	39	0	▲38 (▲97.7%)
販売費及び一般管理費	643	618	▲24 (▲3.8%)
営業利益	▲295	▲361	▲65 (-%)
営業外損益	▲4	▲14	▲9 (-%)
経常利益	▲299	▲375	▲75 (-%)
特別損益	23	2	▲20 (▲89.8%)
当期純利益	▲289	▲383	▲93 (-%)

平成22年3月期 第2四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期	当期	増減(率)
流動資産	5,958	5,695	▲263 (▲4.4%)
固定資産	4,137	4,163	25 (0.6%)
総資産	10,096	9,858	▲237 (▲2.4%)
流動負債	7,500	7,452	▲48 (▲0.6%)
固定負債	777	698	▲78 (▲10.1%)
負債計	8,278	8,151	▲126 (▲1.5%)
少数株主持分	0	0	0 (-%)
純資産	1,818	1,707	▲111 (▲6.1%)

平成22年3月期 第2四半期連結売上高セグメント別内訳

(単位:百万円)

	前期 (売上高全体比)	当期 (売上高全体比)	増減(率)
建設事業	3,790 (80.5%)	3,243 (79.8%)	▲547 (▲14.4%)
建築	2,970 (78.4%)	2,339 (72.1%)	▲630 (▲21.2%)
土木	819 (21.6%)	903 (27.9%)	83 (10.2%)
環境事業	492 (10.5%)	412 (10.1%)	▲80 (▲16.3%)
不動産事業	43 (0.9%)	79 (2.0%)	35 (82.1%)
その他事業	381 (8.1%)	331 (8.1%)	▲50 (▲13.1%)
売上高合計	4,707 (100%)	4,065 (100%)	▲641 (▲13.6%)

※建設事業内訳の建築・土木の比率は建設事業全体比

平成22年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 本合計	評価・換算 差額等	少数株 主持分	純資産 合計
前期末 残高	583	731	1,028	▲0	2,342	▲223	0	2,119
剰余金 の配当			▲39		▲39	-		▲39
当期 純利益			▲383		▲383	-		▲383
その他			0		0	10	▲0	10
当期変 動額計	-	-	▲422	-	▲422	10	▲0	▲412
当期末 残高	583	731	605	▲0	1,920	▲212	0	1,707

平成22年3月期 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期	当期	増減(率)	
営業キャッシュ・フロー	428	▲12	▲440	(-%)
投資キャッシュ・フロー	▲604	▲0	604	(-%)
財務キャッシュ・フロー	125	▲241	▲367	(-%)
現金及び現金同等物 の当期末残高	1,005	910	▲95	(▲9.5%)

当社グループの経営戦略・中期経営計画

■ 経営戦略

当社グループは、「変化する時代・社会の中にあって、常に顧客から選択してもらえる企業を目指し、もって、安定した収益基盤を築くことにより、社会（顧客）、株主、社員の期待に応える」ことを基本として再確認し、現在の経営環境と第6次中期経営計画の達成を踏まえ平成21年度から平成23年度までの3カ年に亘る新たな第7次中期経営計画を推進していきたいと考えております。

ねらいとしては、この100年に一度とも言われる金融危機の中で、激変する経済環境の変化に素早く対応し、困難が待ち受ける今後の3年間で、目標を達成するために全力を傾け、社員一人ひとりが誇りを持って働ける会社であることを皆で確認することです。

■ 中期経営計画（平成21年度から平成23年度まで）の重点項目

- (1) グループ間シナジーを発揮し、経営基盤を構築する。
- (2) 営業機能を強化する。
- (3) 経営資源の環境事業への集中・重点配分を行う。
- (4) 競争力をアップする。

以上の実行をとおして、当社グループは業をもって社会（顧客）に貢献し、投資いただいている株主の皆様の付託に応えていく所存であります。

平成22年3月期の通期の見通し

■見通し

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、公共建設投資の削減・減少が続き、加えて企業収益の低下等に伴い民間建設投資の不透明感が強まり、一層厳しい受注環境が当分続くものと予測されます。

■当社グループの取り組みと対処すべき課題

引き続き受注の確保に努めることと併せて、収益力の強化と利益創出のために一丸となって取り組むこととあります。これは、中期経営計画の基本的考え方をしっかりと堅持して、全グループ社員・全グループ組織がそれぞれの果たすべき機能の中で、堅固な意志のもと、グループワイドでビジネスチャンスをもものにすべく、グループ間の連携の仕組みづくりを構築することにより当社グループの結束力を強化し、そのシナジー効果による目標レベル・数値目標の達成を目指すことが重要な課題であると捉えております。

以上の見通し及び取り組みを踏まえ

平成22年3月期 通期 連結業績予想

(単位:百万円)

	平成21年3月期	平成22年3月期	増減(率)	
売上高	14,335	14,500	164	(1.1%)
営業利益	81	125	43	(53.1%)
経常利益	69	75	5	(8.2%)
当期純利益	59	25	▲34	(▲57.8%)

業績の見通しについては、現段階の入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しておりますが、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況の変化等により、実際の業績の予想数値と異なる場合がありますことをご了承願います。

“誠意と技術で創る”

 **常磐開発株式会社**

福島県いわき市常磐湯本町辰ノ口 1

TEL : 0246-72-1111 (代表)

<http://www.jobankaihatsu.co.jp>